平成２５年度ユニバーサルデザイン（ＵＤ）教育の取組

１　学校名	鳥栖市立基里中学校		
２　所在地	鳥栖市原町６７２番地１		
３　校長名	西村　孝子		
４　学級数 生徒数	７学級 １４６人	５　実施学年 生徒数	全学年 １４６人

６　取組のねらい

(1) バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを理解させる。

(2) 障害者や高齢者の疑似体験を通して、その不便さなどを理解させ、社会生活を営む全ての人が生活しやすい環境や利用しやすい製品を考えていく力を育成する。

７　取組の実際

(1) １年生の取組

５月１６日（金）の総合的な学習の時間に、ユニバーサルデザインの意図を知るために、障害者や高齢者の疑似体験として、ブラインドウォークや車椅子体験を行った。

ブラインドウォークでは、アイマスクを着用して、障害物を避けながら廊下を歩いたり、階段を上り下りしたりした。目が不自由な体験をすることによって、点字や点字ブロックの必要性、階段に手すりがあることの重要性や言葉かけの大切さを感じることができた。

車椅子体験では、車椅子の使い方、車椅子に乗り降りをさせるときの注意点を学んだ上で、スロープや階段を車椅子で移動する体験を行った。わずかな段差でも移動が困難であることや声かけをすることで安心感が生まれるということを学んだ。

生徒たちの感想には、「目が見えないということが、どんなに不安であるかが分かりました。つないでいる手やちょっとした言葉かけが、ありがたいと思いました。」などがあった。

⑵　２年生の取組

１月１７日（金）の総合的な学習の時間に、社会に暮らす全ての人が安全で安心して生活できるようにするためには、どのようなことをすれば良いかを考えさせた。そこで、まず、どのような環境や製品があるとよいかを考える前段階として、高齢者疑似体験、車椅子体験、ブラインドウォークを行った。

高齢者疑似体験では、手足におもりを付け、ゴーグルをはめた上で、物を持ち上げたり、階段の上り下りをしたりした。思った以上に自由が利かなかったり、普段何気なく見えている物が良く見えなかったりして、不便さを実感した。

また、ブラインドウォークの途中に、シャンプーとリンスで容器の形状を変えてあるものを触ってみるなどして、身近なところにもユニバーサルデザインを取り入れた製品があることを再確認することができた。

生徒たちの感想には、「お年寄りの方がゆっくり歩いていたり、動作がとても遅かったりしているのはこれまでも見たことがありましたが、こんなに不便さを感じていたのだということが初めて分かりました。」「普段何気なく使っている物にも、目が不自由な人のために工夫して作られている物があることが分かりました。」などがあった。

⑶　３年生の取組

９月２７日（金）、１１月２７日（水）の総合的な学習の時間に、学級ごとに保育園を訪問し、幼児と触れ合う体験活動を行った。

訪問に際しては、幼児の年齢に応じて、また、安全性を考えて、フェルトのボールの中に入れる綿の量を調整して作るなど、様々な遊具を製作して持参した。幼児の目線に立って考える中で、幼児に限らず高齢者や障害者など、常に相手の立場に立って物事を考え、工夫することが大切であることを学んだ。

生徒の感想には、「ボールなどを作っているときは、どうすれば喜んでくれるか分からなくて困りましたが、園児たちの笑顔を見ると苦労も吹き飛びました。これからも小さい子どもと接するときは、子どもの目線に立って接したいと思いました。」などがあった。

⑷ 全校の取組

１２月１１日（水）の学活の時間に、聴覚障害者の方を招いて講話をしていただいた。「耳が聞こえなくて困ったこと」「生活するために工夫したこと」「聾学校に行ったときの苦労」などの話を聞き、耳が聞こえることが当たり前なことと思っている生徒たちに「健康のありがたさ」「優しく思いやりをもつことの大切さ」「どうしたら障害をもつ方々の役にたてるのか」を分かりやすく、実感をもって教えていただいた。また、耳が聞こえないために、光で知らせる道具や振動で知らせる道具を使っていると、実物を見せてもらいながら説明を受けた。ユニバーサルデザインの製品を考える際の発想の一つとして、とらえることができた。

また、一緒にお出でいただいていた手話サークルのみなさんに「手話」を教えていただいた。

生徒の感想には、「朝起きるときの目覚まし時計の工夫や誰かが玄関に来たときのチャイムの工夫など、様々な工夫があり、すごいなと思いました。」「聴覚障害者の人にトラブルが起こったら、状況を把握するのが困難だろうと思いました。でも、周りの人の思いやりによって、少しは不安がなくなるのではないかと思います。自分も声をかけられるようになりたいと思いました。身体障害者の人たちが不自由なく暮らせる社会というのは必要ですし、大切にして、私たちもこれからそういう社会を作っていきたいと思いました。」などがあった。

８　取組の成果と課題

（1）成果

体験学習や講話を通して、障害者や高齢者の不便さに気づき、自分たちのちょっとした心がけや言葉かけで、みんなが少しでも生活しやすくなるということを学んだ。また、学校生活でもみんなが過ごしやすくなるように教室環境を整えようという意識が生まれてきた。また、昨年度に身体障害者の方に講話をしていただいたときの「障害は不便であるが、不幸ではない」という言葉を思い起こす生徒もいて、自分たちに何ができるかを考える良い機会になった。

（2）課題

ユニバーサルデザインに係るアイデアを出すまでには至らなかった。今後も取組を継続し、保護者や地域を巻き込んで考えていけるようにしたい。